

本校における学力向上対策の取り組み

1 目標

生きる力をはぐくむことを目指し幼児・児童・生徒一人ひとりに「基礎学力」を身につけさせる。

2 方針

- (1) 知・徳・体の調和の取れた児童の育成を目指し、心の教育と自己教育力の育成を重視して具体的な施策を展開する。
- (2) 学校・家庭・地域社会が連携して、心身ともに健康で思いやりのある児童の育成に取り組む。
- (3) 全職員の共通理解のもとに、校内研究組織を通して実践する。

3 推進の視点

- (1) 課題に対応した取り組み・・・本校の教育課題を明確にし、重点化と日常化を図る。
- (2) 具体的な取り組み・・・基礎的・基本的事項の定着を図り、児童の生き生きとした教育活動を推進する。
- (3) 日常的な取り組み・・・多面的に児童を理解し、基本的な生活習慣の形成を図る生徒指導の充実を図る。
体験的な学習を重視し、自主性や創造性を育成する。
- (4) 連携した取り組み・・・開かれた学校づくりの推進と学校・家庭・地域社会との連携
- (5) 実効性のある取り組み・・・児童の実態、家庭・地域社会の実態に応じた達成目標を設定し、目標実現のための取り組みの実施。

4 取り組みの重点

- (1) 基礎的・基本的事項の定着
- (2) コミュニケーションの能力の育成
- (3) コンピュータ操作・活用能力の育成
- (4) 夢や希望の育成
- (5) 生活リズムの確立
- (6) 健康と体力の向上
- (7) 校内の学力向上にかかる取り組みの充実・強化
- (8) 校内学力向上対策委員会の充実
- (9) PTA 活動の活性化と連携の強化

5 年次計画

ステップ	施策の重点	取り組み内容
2002年度	実施体制の確認と実施の推進	県・市学対の推進事項の確認 本校学力向上推進計画の作成 沖縄東中ブロック学力向上対策推進委員会の取り組み

2003年度 ～2005年度	取り組み事項の重点化 と日常化	基礎基本定着の具体的取組の実践 「夢、にぬふぁ星プラン」の実践 沖縄東中ブロック学力向上対策の実践 進捗状況の把握と課題の整理、及び具体的対応策
2006年度	取り組み事項の日常化 と5か年の成果と課題 の把握	本校学対目標の総合的取り組みの充実 「夢、にぬふぁ星プラン」の充実 沖縄東中ブロック学力向上対策の充実 学力向上対策の成果と課題の把握、次年度計画

6 特色ある取り組み

特色ある取組（継続的・効果的・発展的な取組） ※全教育活動
<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動への積極的参加（朝の清掃活動・献血呼びかけボランティア） ○コンピュータ委員会の活動（毎日、ホームページの内容を更新するなど日常的な活動） ○毎朝の読書の時間の設定（月～木10分間） ○父母による読み聞かせボランティア（毎週木曜日） ○ミニドリルタイムの帯時間設定（毎日） ○結委員会の設置 （児童に関する情報や学校課題に関する情報を集約し方向性を見出し実践推進を図る）

7 校内研修の取り組み

＜平成18年度研究テーマ＞

**子どもの姿を起点とした教育活動の追求
～学びの構えと基礎学力の定着を目指して～**

(1) 研究テーマ設定の理由

今日の学校教育において「確かな学力」と「豊かな心」を育むことは重要な課題である。また、子供たちが、生き生きと学習に取り組むことができる「楽しい学びの場」としての学校を追求することは不易な課題であろう。

本校はこれまで、これらの課題解決に向けて平成15年度より「自ら学び、生き生きと学習に取り組む児童の育成」を研究テーマに掲げ、「コミュニケーション能力」に焦点を当てた取り組みを積み重ねてきた。この3カ年の実践研究から一定の成果を得ることができた。

しかし、子ども達の実態を学校生活全般に押し広げて捉えてみると、多種多様な課題が浮き彫りになってきた。特に学びの基礎となる学習規律や学習集団としての課題がより大きな課題として認識されるようになってきた。さらに、子供たちの変容を見取り、教師自身の実践の手ごたえややりがいといったものが研究の成果から得にくい状況もみられた。

そこで、本年度より、「子供の実態に即した教育活動を産出する」という学校本来の姿を再認識し、子供の姿・実態を起点とした教育活動を組織として協働的に創り出していくことを中核にすえながら、本校の重要課題である「学びの構えと基礎学力の定着」を目指していきたいと考え本テーマを設定した。

(2) 研究の方向性

- ◎子どもの姿を起点とした実践研究
- ◎学校課題の解決に向けた協働実践
- ◎実践知の共有・交流

- ①「日常性・継続性」の重視
- ②「仮説検証型」から「実践事例交流・共有型」へ
- ③「仮説や理論にそった協議」から「自らの実践に生かせる事例の協議」
- ④「目標を具現する日々の実践」
- ⑤「批判的検討」から「価値を認める、意味づける検討」へ

(3) 研究仮説

各教科・領域において、子どもの実態に関する情報<学びの構え・基礎学力に関する情報等>を交流・共有しながら課題認識を形成し実践へと結びつけていくことによって、より教育効果を高め、目指す子ども像へと接近することができるであろう。

(4) めざす子ども像

基 礎 学 力 と け じ め の あ る 子

(5) 研究方針

- ① 教師としての資質・実践力を高める研究になるように各自努める。
- ② 理論研究や研修会は適宜実施するものとする。
- ③ 研究日は基本的に毎月第1・2・4金曜日とする。
- ④ 協働性・同僚性を高めていくことを留意しながら推進する
- ⑤ 「実態認識」→「課題認識」→「実践の変革」のサイクルを意識した取り組みの展開

(6) 研究方法の概要

- ① ワークショップによる定期的な相互交流
 - 子ども達の実態に関する情報交流の場
 - 課題解決に向けて共に考える場
 - お互いの悩みや思いを共感・共有する場
- ② オープンクラス&提案授業→授業改善
 - オープンクラス→子ども達の学びの様子を把握、共有する。
*各担任の可能な日時に可能な方が互いの子ども達の様子を見合う。
 - 提案授業→授業改善に向けた提案としての授業をもとに全職員で考えていく場
*全職員で授業を見合う場を設定して授業改善につなげていく

(3) 専門部・学年部による取り組み

- 校務分掌上の各4専門委員会の取り組み
- 各学年で任意の実践テーマを設定し取り組んでいく。

8 授業改善・充実の取り組み

授業の改善・充実に向けた学校の取組 ※校内研究の実践等

●ワークショップによる実態把握と課題の明確化



「学び合いがうまくいかない」→授業改善へ

「自己肯定感が低い」→ほめる教育の推進

「学習の遅れ・個人差」→個別支援体制の充実

「言葉の荒れ」→言葉のけじめ指導強化

●オープンプラスによる子ども達の学びの様子を共有く各学年で実施

ふだんの子どもの学びの様子を教師相互で参観し合い、実態を共有していく。

●提案授業&授業研究会

8月25日 「言葉の荒れに対して道徳の授業を通して迫っていく」

主題名：気持ちと言葉2－(1) 礼儀

資料名：ソーリィ

ねらい：さりげない一言から相手の心をあたたくさせ心のつながりを生むことに気づかせる。

【研究協議会】

○学びの構えの観点


- ・鉛筆の持ち方ができていない子が多い
- ・聞く姿勢をとることができてきている。
- ・考えながら聞いたり自分の意見をまとめたという力をさらににつけたい
- ・発言力を高めたい

○主題からの観点

・一言の大切さに気づくことができた子もいた。・エンカウンターの授業を計画にしながら、継続的に言葉づかいと心の教育を進めていく必要がある。



9 「基礎学力」向上の取り組み

項目	達成目標(数値・行動目標)	具体的取組	成果・課題
基礎的・基本的事項	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力検査正答率 80 % 以上の通過率 80 % 以上を目標とする。(3年～6年) ○基礎学力検査の偏差値の平均点を、45 点以上を目標とする。 ○単元テスト平均 80 点を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的、基本的事項事例集の活用とマスターシートの活用を図る。 ○毎日ドリル時間の設定 ○長期休業時の補習指導の実施 ○授業改善 補習指導・個別指導・少人数指導 習熟度別学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元テストでは各学年平均点 80 点以上をクリアしている。 ○個別の学習支援の充実を図る必要がある
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○だれとでも親しく接する好ましい人間関係ができる。 ○場に応じた言葉づかいやあいさつができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○係活動・当番活動・児童会活動 ○交流会の推進 ○聞く・話す活動の指導 ○教師・児童の日常会話 ○職員室での入室指導 ○児童会の朝のあいさつ運動 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成17年度 年間平均読書冊数 107 冊 読書冊数は順調に伸びている。個人差も大きくなっている。
ユニケーションの能力	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人と違和感なく接したり、外国語に触れたりして慣れ親しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALT・NATの活用(3年～6年) ○地域の人材活用(1年～2年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語に興味を持ち意欲的に学ぼうとする児童もいる。 ○高学年になるにつれ積極的に発表する児童が限られてくる。
力	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動に積極的に参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の清掃活動・特別活動・総合的な学習での実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度までの6学年の朝の清掃活動が他学年にも広がった。

		 <p>○募金活動 ○献血呼びかけボランティア</p>	<p>○校外でのボランティア活動が継続的に続いている。(献血)</p>
<p>コンピュータ操作活用能力</p>	<p>○遊び的な活動を通してコンピュータの基本的な操作をすることができる。 (低学年)</p>	<p>○マウスに慣れる (マウス練習ソフト・お絵かきソフト) ○カードや招待状、名刺などの作成</p>	<p>○コンピュータの起動終了ができるようになってきた。</p>
	<p>○1人で基本的な操作ができ課題解決や表現活動の場面でコンピュータを活用することができる。</p>	<p>○デジタルカメラの基本操作 ○簡単な文書作成(ワープロ) ○入力練習(キーボード練習ソフト) ○ネチケットを知る ○インターネットを利用した調べ学習</p>	<p>○ローマ字入力が十分でない子がいるので個別指導が必要 ○基本操作などのスキルの習得率8割</p>
	<p>○自分の学習に応じてコンピュータを活用するとともに主体的な情報収集や情報選択、情報発信・表現をすることができる。</p>	<p>○デジタルカメラの操作、コンピュータへの画像取り込み・加工処理・印刷・文書作成 ○入力練習(キーボード練習ソフト) ○ネチケットを知る ○インターネットを利用した調べ学習(検索を含む) ○プレゼンテーションソフトを使ったまとめや発表電子メール・テレビ会議での相互交流</p> 	<p>○ほとんどの児童がインターネット検索で必要な情報収集などができる。 ○情報発信の活動スキルまで高めたい。</p>

10 夢や希望の育成等に係る取り組み

項目	具体的取組	成果・課題
夢や希望の育成	<p>○児童1人1人に各学期のめあてをもたせ、発表したり掲示したりすることにより、夢や希望を抱かせ、意欲付けや雰囲気づくりをする。同時に「ほめる教育」を推進する。</p> <p>掲示資料の充実・各種便り・表彰朝会・授業実践</p>	<p>○学年朝会などで、ほめる場を設定しながら意図的に評価することで意欲的な態度が見られるようになった。</p> <p>○できたことやがんばったことを振り返り相互に認め合うことができた。</p>
生活リズムの確立	<p>○「よい子の生活」を保護者に配布し規律ある生活態度の育て生活リズムの確立を図る。</p> <p>○遅刻指導の強化</p> <p>○8時登校奨励と朝の活動の実施 (朝の清掃活動・あいさつ運動の充実)</p>	<p>○本校の課題の一つであった遅刻指導の強化を図った結果、遅刻が大幅に減り学校全体の朝の雰囲気が落ち着いてきた。</p> <p>○朝のボランティア活動が6学年から他学年へと広がりを見せてきた。</p>
	<p>○家庭学習の習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標冊数1人5冊の設定・家庭との連携 ・2冊方式・コメントの記載 ・課題プリントの作成・手引き配布・学習内容との関連 	<p>○現在の家庭学習の定着率7割程度個人差が大きく個別指導を充実させていく必要がある。</p>
	<p>○家庭との連絡を密にしながら、励ましたり賞賛しながら信頼関係を築いていく。</p>	<p>○7時までに起床している児童が前年度66%から今年度72%と増加</p> <p>○11時以降に就寝する児童は23%と5人に1人は就寝時間が遅い傾向がある。</p> <p>家庭への協力依頼が必要である。</p>
健康と体力の向上	<p>○泳力の目標を設定(6年25m)し各学年で泳力測定を実施する。</p> <p>○楽しい体育をめざし、学習指導の工夫・改善に努める</p>	<p>○25m泳げる児童(10月測定)</p> <p>3年・30% 4年・45%</p> <p>5年・60% 6年・70%</p>
	<p>○児童の自主性・自発性を生かした部活動やクラブ活動を奨励する。</p>	<p>○各運動系の部活で活躍している子供が多い。</p>
	<p>○自ら進んで健康で安全な生活ができる能力や態度を育成するため、生徒指導や学校保健委員会と連携して、「禁煙指導教室」「薬物乱用防止教室」等を実施する。</p>	<p>○平成17年度喫煙で指導された児童はいない。</p>
	<p>○疾病予防と虫歯の治癒率50%を目指す。</p>	<p>○虫歯治療率51,5%(10月現在)</p>

11 具体的で実効性のある連携教育の取り組み

連 携	具 体 的 取 組	成 果 ・ 課 題
幼 少	○生活科・特活・環境美化での交流 ○幼小の職員間の情報交換話し合い	○子ども同士の交流が図れた。 ○情報交換・共通理解がすすんだ ○スムーズに入学できる態勢づくり
沖縄東中 ブロック	○中学校区学対の取り組み （三校交流授業・実践報告会） ○中学校ブロック生徒指導連絡協議会	○学校間の情報交換 ○生徒指導・学習指導等の指導方法 の見直し ○ブロック内の生活習慣アンケート の実施・分析
学校と家庭	○授業参観・日曜参観、懇親会などを開催する。 ○学校からの情報発信の充実を図る。 お便り・ホームページ・携帯による連絡網試行	○教育活動への理解・支援
学校と P T A	○学校行事への協力 ○P T A活動（三役、役員との連携）	○P T A活動の活性化
学校と自治 会・地域	○学校行事・P T A作業 ○学校評議員（人材交流・活用） ○児童の地域行事への参加奨励 ○喜見夢庭の会（父母の会）との連携	○学校への理解 ○毎週の帰宅指導を連携して実施 ○毎月定例会を開催し情報交換を行 っている。

12 一事徹底事項・一校一番運動の取り組み等

取 り 組 み 内 容	方 法	成 果 ・ 課 題
個に応じた家庭学習の取り組み（目標：定着率8割）	○家庭学習の指導工夫 課題プリント・手引き・学習内容との関連 ○家庭学習の評価の工夫 2冊方式・コメント・提出率把握 ○家庭学習の意欲づけの工夫 目標設定・家庭との連携	○個別支援の体制づくりが整 い個別指導を実施

13 美東っ子の学力検査データ等からみる成果と課題

(1) 小6達成度テストの結果 (H15～H18)

	H15	H16	H17	H18 (市平均)
国語	36,5	39,8	41,7	41,4 (41,3)
算数	34,9	39,8	41,7	41,0 (40,7)

(2) 小5標準学力調査の結果

	H17	H18
国語	64,0	63,4
算数	60,9	65,4

(3) 読書・家庭学習冊数 (児童1人当たりの平均)

	H15	H16	H17	H18
読書	88,3	85,4	107	102(12月現在)
家庭学習	4冊	4冊	4,5冊	5,1冊

(4) 市基礎学力テスト結果の推移

平成16年度

平成17年度

平成18年度

	国語	算数
3年	38.3	45.7
4年	39.9	39.5
5年	39.5	38.8

	国語	算数
3年	42.2	43.6
4年	37.9	42.9
5年	38.4	42.4

	国語	算数
3年	41.9	42.6
4年	43.0	40.3
5年	40.1	41.8

(5) コミュニケーションの能力に係る実態

○朝のあいさつ運動などの取り組みを通してよりよい関わり合いが生まれつつある。
○好ましくない言葉づかいが見受けられることから、言葉のけじめとしての指導を重点的に行う必要がある。
○外国人と違和感なく接したり関わろうとすることができる。

(6) コンピュータ操作・活用能力に係る実態

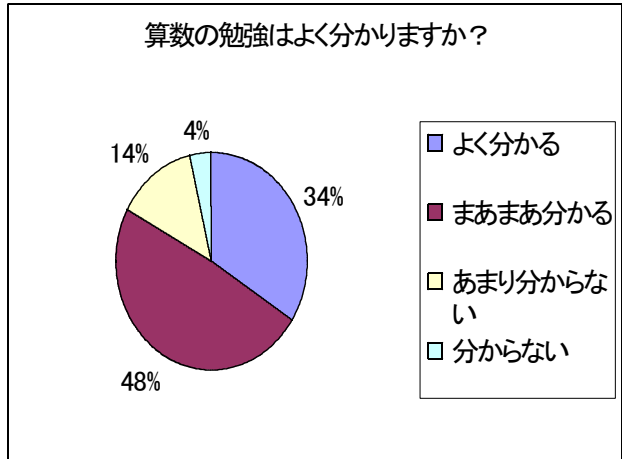
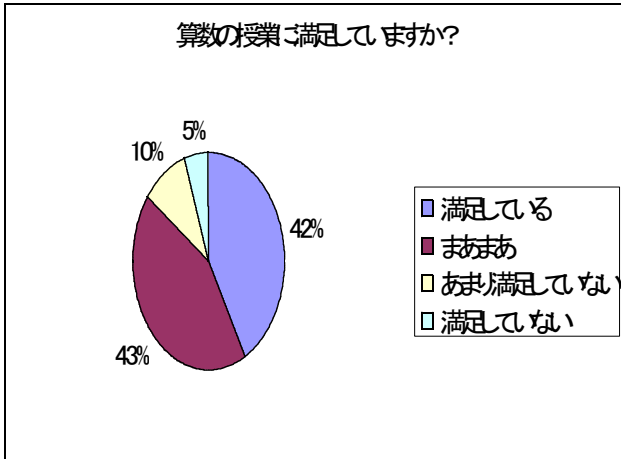
○昨年度は、各学年とも基礎的操作スキルの習得はほぼ達成している。
○コンピュータ活用に意欲的な子どもが多いので今年度も引き続きマナーやルールを習得させながらスキルアップをしていく。

(7) 児童アンケートより (H18、12月実施) 3年生～6年生対象

「算数の授業に満足している・まあまあ満足」 H17年度 77% → H18年度 85%

「算数の勉強はよく分かる・まあまあ分かる」 H17年度 85% → H18年度 82%

* 算数授業の満足度は昨年と比較して満足度は上昇したが、「分かった」と感じている比率は若干さがった。算数授業に 15%～18%の子が「満足」しておらず、「分からない」と感じていることから、さらなる授業改善と個に応じた対応策に取り組む必要がある。



(8) 「美東ッ子」の日常的な授業における課題

【次年度の取り組みへ】

<生活指導的側面>

- 整理整頓が苦手
- 正しい姿勢で授業中ががんばれない。
- 学習用具の忘れ物 (ノート・筆記用具)
- 必要以上の筆記用具を持っている
- ルールやマナーを尊重する態度・意識

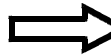


< 対応策 >

- 学習規律のモデルを作成し全校一斉指導へ

<学習指導的側面>

- 教科書・問題文をしっかりと読み取れない。
- ノートのとり方
- 話をしっかりと聞き取ることが苦手
- グループ学習
(他者の意見を受け止められない)
- 計算・漢字力の定着



< 対応策 >

- 家庭学習の取り組みの工夫改善
- ドリルタイムの位置づけ実施方法の改善へ
- ミニマムカリキュラムの策定と全職員による指導・支援体制づくり
- 個別指導の充実